

少し慣れたかな、鶴の折り紙

好評の認知症講座

北区会の第7回認知症講座（第4回折り紙教室）が5月31日午後、カレッジL教室で開かれ15人が参加しました。まず、道満区会長から認知症予防について、NHKテレビの番組「ためしてガッテン」をパワーポイントで再現しながら簡単なレクチャーがありました。ポイントは①運動②食事③コミュニケーション④折り紙などの知的活動⑤睡眠の5つ。「日頃の生活の中でこの5点を意識してください」とのことです。

後半は折り紙教室。講師は梶田みどりさんと助手は孫のまどかさんが務めました。「きょうは、鶴のカードスタンド、飛び蛙、双鶴の色紙の3つを作ります」と説明があり3班に分かれて早速制作開始。鶴の折り方は3回目で慣れているのか、皆さんスムーズに作業が進みほどなく完成。

次は跳ね蛙。「山折り、谷折りの基本に忠実に作って下さいね」と、まどか助手から声が飛ぶ。苦心の末、これも何とか完成。最後の双鶴は太陽・雲・鶴を各自が作り、講師提供の色紙に貼り付けていくもので、皆さん見栄えのするきれいな作品に仕上がりに満足そうでした。【写真】④出来上がった作品を前に、満足そうな参加者 ⑤舟形の七夕飾りと梶田みどりさん

七夕飾りに悪戦苦闘

第8回認知症講座（第5回折り紙教室）は6月28日、カレッジ学習室3・4で開かれ13人が参加しました。初めに、庄田洋一委員からUD（ユニバーサルデザイン）について認知症予防の観点から話がありました。庄田委員は各地域の小学校でUDの出前講演をしています。UDは誰もが使いやすい道具や建物を作り、普及させようという考え方で、アメリカの学者が提唱。世界的に広がっていて神戸市でも市民・企業・行政が提携して快適に暮らせる町づくりを進めており、しあわせの村も支援しています。

UDには①公共性②自由度③単純性④分かりやすさ



⑤安全性⑥負担度⑦スペース、の7原則があり、これに則ってデザインされています。折り紙との関連では、①手を使い脳に刺激を与える②想像しながら考え、折ることができる③作ったあと、出来栄を確認できることが、予防に繋がるということです。

その後、梶田みどりさん・公子さんの指導で、折り紙教室がスタート。この日は①守り鶴、②舟形の七夕飾り、③金魚と蓮の3点にチャレンジしました。折り紙にも少し慣れてきて、手際もよくなったようですが、特に難しかったのは舟の周りに網が垂れるようにハサミを入れる七夕飾り。舟が大きすぎたり、網が小さすぎたり、悪戦苦闘しました。

車椅子テニス9人がサポート

第24回車椅子テニス大会（Dunlop Kobe Open 2017）が、4月20日～23日の4日間、三木市のブルボンビーンズドームで開催されました。この大会は国際テニス連盟、日本車いすテニス協会公認の国内競技で国枝慎吾、上地結衣ら有名プレイヤーを含め100人が参加。海外からも韓国6人、タイ・台湾から各1人が加わりました。

グループわ国際部会は十数年前からボランティアとして開催に協力しており、今年もバスによる選手の送迎手伝い（関西空港への送迎、宿舎のホテルオークラ～会場間の送迎）、会場での飲み物・弁当配布、汚物回収などのお手伝いを有志10人で担当しました。

競技は予想通り国枝選手と上地選手が優勝。最終日にはジュニア選手20人もテニスを楽しみました。

この会場は、室内ドームで設備も完備していますが、公共交通の便がないため、観客が少ないのが大変残念です。グループわの活動は評価されており、来年度も同時期に開催されるので、見学やボランティアに参加されるよう期待しています。ボランティア参加者は次の皆さん（敬称略）。柳川瀬・土井・佐伯・芳賀・藤澤・菅田・鬼村・川端・吉本・道満。（取材・土井昭政）

